学校番号	１２０７

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	日本史ＢⅠ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新日本史Ｂ 改訂版」　（山川出版社）						
副教材等	図説　日本史通覧　（帝国書院編集部）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

まず最初に資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解し、学習への関心を高める。原始・古代から中世までの学習では、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を考察する。その中で、歴史を学ぶ意義を理解したうえで、現在あるいは未来の社会をいかに生きるかについて考える力を養う。また、日本文化の学習については生活文化や民俗学の視点もふまえ、その特色と形成過程を総合的に考察する。

2　学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。原始・古代から中世までの日本史の展開を、アジアのみならず世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で大きく考察する。同時に、歴史の展開の中、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察させることによって歴史の見方・考え方を身に付け、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養うことをねらいとする。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史的・地理的事象に対する関心と問題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際化する社会に生きる個人として主体的に責任を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見いだし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・課題への取組状況	・授業の発言と発表 ・課題の成果 ・定期試験	・授業の発表 ・課題の取組状況と成果 ・プリントのメモ状況	・定期試験

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	**1章　日本文化のあけぼの**	1．文化の始まり 2．農耕社会の形成 3．古墳とヤマト政権	○	○	○	○	a: 人類の起源やヤマト政権の形成に興味をもち、追究している。 b: 黒曜石などの考古資料を提示し、集落・風習・食生活の変化などをふまえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察している c: 黒曜石などの考古資料や『魏志』倭人伝などの文献資料から正確な情報を読み取ることができる。 d: 富の蓄積が開始される中、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
1	**2章　古代国家の形成**	1．ﾔﾏﾄ政権の支配機構 2．推古朝と飛鳥文化 3．律令国家への道 4．律令国家の構造	○	○	○	○	a: 律令国家の形成に興味をもち、追究している。 b: 律令国家が成立するまでの政治の動向を理解し、白鳳文化の歴史背景を考察する c: 図版・資料を活用して、飛鳥の政治・文化の特色について読み取ることができる。 d: 大化改新から壬申の乱までの政治的経過を把握し、白鳳文化の成立を理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
1	**3章　古代国家の展開**	1．天平時代 2．天平文化 3．律令国家の転換	○	○	○	○	a: 奈良時代の政治の動きに興味をもち、追究している。 b: 平城京における政治の動きについて、民衆への土地政策も含めて考察する。 c: 図版・資料を活用して、平城京の特色について読み取ることができる。 d: 奈良時代の帝国構造を東アジア世界との関わりの中で理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

2	**4章　宮廷貴族社会の成立**	1．摂関政治 2．国司の支配と社会の変化 3．国風文化	○	○	○	○	a：摂関期の政治の動きに興味をもち、追究している。 b：摂関政治と、武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽について考察している。 c：国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達をふまえて地方支配の状況を文献史料から読み取ることができる。 d：藤原氏による摂関政治が地方における土地・人々との支配体制に及ぼした影響を理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
2	**5章　武家政権の成立**	1．院政の成立 2．中世社会への胎動 3．鎌倉幕府 4．執権政治 5．鎌倉時代の社会と文化 6．蒙古襲来と幕府の衰退	○	○	○	○	a：院政期と武家政権について興味をもち、追究している。 b：院政期から鎌倉時代の土地支配形態をふまえて、当時の政治・社会を考察する。 c：武士や庶民を題材にした文学、絵巻物や力強く写実的な彫刻の写真などから鎌倉文化の特徴を読み取ることができる。 d：院政期後半における武士の影響力の拡大や平氏政権における日宋貿易の展開、地方文化の発展、東アジアの動きの影響をふまえ、平氏政権と鎌倉幕府の成立と衰退を理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
3	**6章　中世社会の展開**	1．室町幕府の成立と南北朝の内乱 2．室町幕府の支配と守護 3．東アジア世界との交流 4．民衆の台頭と室町時代の文化 5.戦国動乱と諸地域	○	○	○	○	a：室町時代について興味をもち、追究している。 b：応仁の乱を機に下剋上の風潮が生まれて幕府が動揺する中、社会秩序の変革の原動力となりえるまで成長していった庶民の活動について考察する。 c：史料から、一揆をはじめとする具体的な庶民の活動について読み取ることができる。 d：大航海時代と呼ばれる世界史的背景をふまえて、琉球・蝦夷地との関係を含めて、世界史的視野から中世の東アジア世界をとらえ、当時の日本を理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c: 資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。